



® 平成 29 年 12 月 20 日 (水)

No. 14594 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (29) … (1)

地域における観光と知的財産の関連性 (29)

東京理科大学専門職大学院 (MIP)

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

26. 広島県呉市 (商標権、営業秘密、著作権)

今回は本稿の第13回と第14回 (2016年6月22日と7月21日付) で取り上げた「佐世保市」に引き続き、海軍の町で有名な「広島県呉市 (くれし)」について検討する。

呉市は広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面した気候穏和で自然に恵まれた臨海都市である。2016

(平成28)年4月1日に中核市に昇格した。人口は広島県内では福山市に次ぎ3位で、保健所政令市に指定されている。

地形的に「天然の良港」と言われ、古くは「村上水軍」の一派が根城にしており、明治時代以降は、帝国海軍、海上自衛隊の拠点となっている。第2次世界大戦中は全国10大都市に数えられ、40万人を越える人口を抱えていた。

化学・医薬・バイオ専門だから、ここまでできる

JAICI
化学情報協会

知財情報センター



0120-921-997 E-mail: ships@jaici.or.jp



SHIPS

特許調査 SHIPS



製剤、遺伝子、抗体、ポリマー、食品、飲料、化粧品等、何でもご相談ください

2005 (平成17) 年に周辺の安芸郡音戸町、倉橋町、蒲刈町、豊田郡安浦町、豊浜町、豊町を編入した。これによって呉市は本州にある地域と下蒲刈島と情島に加え、南の倉橋島、上蒲刈島、豊島、大崎下島を加えて人口25万人規模の市となった。

産業は、造船、鉄鋼、パルプ、機械、金属などを中心とした臨海工業都市として発展している。近年では観光産業で有名な都市である。「大和ミュージアム (通称)」、「てつのくじら館 (通称)」など海軍・海上自衛隊に関する博物館がある。

2016 (平成28) 年、戦時中の広島・呉を舞台としたアニメ映画『この世界の片隅に』が大ヒットした。作中では世界最強とも謳われた戦艦「大和」や重巡洋艦「青葉」などがリアルな描写で再現され、軍艦ファンからも熱い注目を浴びている。

『艦隊これくしょん -艦これ-』という「育成シミュレーションゲーム」及び「メディアミックス作品群」も大ヒットしている。呉市はこれらの作品の舞台としても世界から注目を集めている。

「呉」の名前の由来は諸説ある。①呉一帯をつつむ連峰が「九嶺 (きゅうれい)」と呼ばれていたことによる。その後、なまって「くれ」になった。②灰ヶ峰から伐採した「くれ (樽、板材の意)」が特産品として有名になったことに由来する。③中国三国時代の「呉 (孫権が建国)」の子孫に由来し、戦乱などを逃れて呉から日本列島に亡命して呉周辺に住んでいた中国からの渡来人を「くれ人」と呼んでいた。「呉 (ご)」を訓読み (和訓) して「くれ」と呼んだ。現在、呉市の「市章」は①の由来にあやかり、9つのカタカナの「レ」で星形を模り、真ん中に「市」という漢字が入ったマークとなっている (図1)。

図1：市章¹



(1) 歴史²

縄文時代や弥生時代の遺跡が残っている長い歴史のある地域であり、奈良時代には遣唐使の船を作った記録がある。その後、水軍が確認され、明

治以降は海軍の重要施設が作られると共に、軍艦や戦艦の製造基地であった。軍縮の余波を受け、失業者を大量に排出した地域でもある。戦後は船に関する資料が集積している地域であることを生かし、観光資源として活用している。(以下、太字&下線の部分は、船に関する歴史である。)

縄文時代については、呉市郷原町の「郷原遺跡」より、縄文前期～後期の土器、打製石鏃 (せきぞく) や石匙 (せきひ)、石錐 (せきつい) などが出土している。また、呉市広町芦冠の「芦冠遺跡」からは、縄文後期～晩期の土器や板状土偶などが出土している。

弥生時代になると、前期については呉市広町横路より弥生式土器破片が出土しており、後期については呉市吉蒲潭鼓町より弥生式土器破片が、呉市栃原町より弥生式土器 (壺) が出土している。

古墳時代の資料として「池浜古墳 (呉市若葉町)」があったが、海軍工作庁建設のために消滅した。「情島古墳 (呉市阿賀町情島)」が半壊状態で現存している。形状は円墳と考えられ、内部構造は横穴式石室である。呉市幸町入船山より、8世紀から12世紀にかけての祭祀用の土師器、須恵器が多数出土している。

飛鳥時代 (7世紀後半) になると、律令地方行政制度の整備に伴い、呉地域に「安芸郡海里 (呉湾沿海地域と島しょ部)」と「フナキ里 (灰ヶ峰山ろく)」が置かれた。『続日本紀』によると、奈良時代 (8世紀) には、安芸国に遣唐使船の建造が命じられたという。この時代から造船の技術が高かった。

平安時代 (11世紀末～12世紀初) には、呉浦の開発領主の呉氏が、呉浦の未開発地を開発して「呉別符」とし、雑公事部分を「石清水八幡宮」に寄進したと『石清水八幡宮寺領安芸国呉保の成立』に記載されている。

安土桃山時代には、呉の末永景道と仁方の白井縫殿助らが、「小早川水軍」として石山合戦に参加した。このとき、白井縫殿助は戦死したと伝えられる。

江戸時代になると、1686 (貞享3) 年には宮原村の呉浦を呉町と呼ぶようになった。1806 (文化3) 年には伊能忠敬により仁方村と広村小坪が測